

2024（令和6）年度 社会連携・社会貢献活動
～国際社会連携～

社会連携・社会貢献の方針	取り組み期間・期日	連携先	取り組み名／公的機関の委嘱／専修大学が参加している事業名	概要
3. 国際社会連携	2024年5月～2024年8月		ウクライナ避難民支援	2022（令和4）年9月より開始したウクライナ避難民の支援を令和6年度も継続し、国際交流センター主催の日本語・日本事情プログラムにおいて、2024（令和6）年度夏期1及び夏期2に避難民を受入れ、学修の機会を提供した。なお、受講料及び国際交流会館への滞在費は免除とした。 夏期1日本語・日本事情プログラム（令和6年5月17日（金）～令和6年6月7日（金）：2名 夏期2日本語・日本事情プログラム（令和6年6月21日（金）～令和6年8月8日（木）：1名
3. 国際社会連携	2024年6月22日		国際交流特別講演会「経済改革ナビゲート：COVID-19後のLaosからのインサイト」	一般市民及び本学学生・教職員を対象とした国際交流交流協定校（ラオス国立大学：ラオス）から招へいた2024（令和6）年度海外客員教授（商学部受入れ：Visansack Khamphengvong氏）による公開講座。12名が参加した。
3. 国際社会連携	2024年7月6日		国際交流特別講演会「違いを生み出す：貧困と社会的排除に関する研究と行動の参加型アプローチ」	一般市民及び本学学生・教職員を対象とした国際交流交流協定校（Social Research Collective代表・リーズ大学元教授：イギリス）から招へいた2024（令和6）年度海外客員教授（経済学部受入れ：Gill Main氏）による公開講座。39名が参加した。
3. 国際社会連携	2024年7月26日		キャンパス見学・留学生との交流	専修大学松戸中学校の生徒を対象に生田キャンパスにおいて、キャンパス見学の際に留学生との交流を行った。特別聴講生（ベトナム・韓国）計2名が協力した。
3. 国際社会連携	2024年9月27日		在県外国籍生徒と留学生のランチミーティング	神奈川県立座間総合高等学校の外国籍の高等学校生と外国人留学生によるランチミーティングを生田キャンパスにて行った。特別聴講生（ベトナム・韓国）計4名が協力した。
3. 国際社会連携	2024年11月13日		国際交流プログラム	専修大学附属高等学校の生徒を対象に同校にて外国人留学生による母国紹介を行った。特別聴講生（韓国）計2名が協力した。
3. 国際社会連携	2024年11月16日		国際交流特別講演会「日本の会社員は副業すべきか？～マクロ経済・個人・AIの観点から考える」	一般市民及び本学学生・教職員を対象とした国際交流交流協定校（ワイカト大学：ニュージーランド）から招へいた2024（令和6）年度海外客員教授（経済学部受入れ：Steven Lim氏）による公開講座。31名が参加した。
3. 国際社会連携	2024年11月30日		国際交流特別講演会「ラオスにおける租税政策と財務報告基準：投資へのインパクト」	一般市民及び本学学生・教職員を対象とした国際交流交流協定校（ラオス国立大学：ラオス）から招へいた2024（令和6）年度海外客員教授（商学部受入れ：Phanphasa Lomchanthala氏）による公開講座。15名が参加した。
3. 国際社会連携	2025年3月14日		国際理解教育推進事業講演会	神奈川県立百合丘高等学校の生徒を対象に同校にて外国人留学生による母国紹介を行った。特別聴講生（韓国・ラオス・ドイツ）計3名が協力した。
3. 国際社会連携	2022～2025年度		「十津川プログラム」：メキシコと日本を結ぶコミュニティ防災プロジェクト	メキシコ山間部の先住民村落における防災意識の向上、および、持続可能な防災学習プログラムの実装を目的とする本プロジェクトは、次のふたつの特徴を有する。ひとつ目は、県立十津川高校（奈良県十津川村）で実施されている科目「ふるさと学」の防災の取り組みをカルチュラル・チューニング（文化的・社会的特性に合わせた調整）した「十津川プログラム」としてメキシコに導入し、防災を軸とした日本・メキシコの国際連携を図る点である。ふたつ目は、「十津川プログラム」を進める教育機関（ゲレロ州トラコアバ高校）を中心として、現地の行政・医療機関・地域住民に防災の取り組みへの参加・協働を促す点である。2025年3月には、トラコアバ村で「十津川プログラム」の成果報告としてコミュニティ防災イベントを開催した。同イベントでは、高校生による発表や演劇、ポスターコンクールのほか、招聘研究者による講演、病院スタッフによる応急処置ワークショップ、災害伝承碑の建立と除幕をおこなった。2025年11月には、十津川高校の科目「くらしと防災」にてメキシコでの「十津川プログラム」の取り組みをフィードバックする予定である。
3. 国際社会連携	2023～2028年度		北中米太平洋沿岸部における 巨大地震・津波複合災害リスク軽減に向けた総合的研究	本プログラムは、メキシコ・エルサルバドルの国際港湾都市を対象とし、地震・津波シナリオに基づく総合的複合災害リスク評価手法を開発し、工学的リスク軽減策と避難戦略・リスクコミュニケーション手法を実装することを目的としている。2024年11月には、メキシコの港湾都市マンサニョにて、メキシコ国立自治大学（UNAM）、コリマ大学、州政府市民防災局、国立防災センター、総合港湾管理公社ASIPONAとの協働による「世界津波の日」の国際シンポジウムを実施した。また、市内の公立小学校における防災教育を推進する調査を進めた。